

ないほどの<sup>あまつぶ</sup>雨粒がガラスにぶつかり、海面を叩き続け、波を立てていたが、不思議と海も波も穏やかだった。それを静かに見ていたセレナはミスエンジェルに現れて欲しかった。

「大丈夫？」

と言いながらやって来たミスエンジェルにはセレナの<sup>いちもくりょうぜん</sup>悩みが一目瞭然だった。

「ノラにプレゼントを渡さなかったの？」

「ええ。機会がなかったの。ノラはとても忙しくて」

セレナは自分の気持ちを打ち明け始めた。ミスエンジェルは<sup>かたむ</sup>耳を傾け、ただただ話を聞いていた。

